

# 東近江市立もみじ保育園

## 園の概要

0歳児	ひよこ組	5名	3歳児	こじか組	23名
1歳児	りす組	7名	4歳児	ぼんだ組	10名
2歳児	うさぎ組	11名	5歳児	ぞう組	20名
					計76名



## 《子どもの姿》

- ・「できない」「難しい」と不安そうにする。
- ・基礎的な運動能力や体力が身に付いておらず、運動遊びに参加しなかったりすぐにやめてしまったりする。
- ・集団遊びでのルール理解の難しさがみられる。
- ・自他の思いの調整が図りにくく、大人を頼りすぎるなど、葛藤経験から学ぶ心の成長の弱さも見られる。

## 《保育者の願い》

運動遊びを通して子ども達の心身の育ちへとつながる経験がたくさんできるように、運動年間計画をもとに発達過程を見通した遊びの提供をすすめ、子どもが楽しみながら基礎的な体力を身につけてほしい。

## 研究主題 「楽しく体を動かして生き生きと遊ぶ子どもをめざして」 ～子どもが楽しく遊べる環境づくり～

### 仮説①（体幹、生活の基礎）

・いろいろな体の部位を動かす遊びをすることで、自然と体幹が鍛えられたり体のバランスが養われたりし、姿勢保持などの生活の基盤につながるのではないか。

### 仮説②（子どもの思い、発達段階）

・発達段階に応じた遊びをすることで、子どもの思いや育ちに合った援助により満足感や達成感が味わえ、意欲的に遊べるようになるのではないか。

### 仮説③（日々の子どもの姿、保育者の願い、環境づくり）

・日々の子どもの姿を踏まえ保育者が意図的に時間と環境を構成することで子どもが思わず体を動かしたくなるのではないか？

### 《キーワード》

0歳児・・・手を伸ばして意欲を示す

1歳児・・・「あっ！」「もっかい（もう一回）」

2歳児・・・「せんせい見て！」「楽しい」「〇〇もしたい」

3歳児・・・「もう一回したい」「先生、楽しい。」「できた」

4歳児・・・「一緒にしよう。」「私（僕）もする。」

5歳児・・・「〇〇ちゃんと一緒にやってみよう。」「もう一回やってみよう。」

めざす子ども像をキーワードで表し共有した。



年齢が上がるにつれて難易度を上げることで、満足感や達成感、自信につなげた。



### 環境を考える会 ↓ 子ども達の遊ぶ姿

**研究主任として...**

- ・協議の日程を調整し時間が取れない時にはアンケートを活用しながら全員参加の協議ができるよう工夫した。
- ・活動内容や講師からの指導をまとめ、全職員に紙ベースで報告することで、園全体の学びとなるようにした。
- ・環境作りの提案や材料の用意、活動分担を指示し効率良く進めるようにした。



### キッズヨガ

ヨガインストラクターの竹井美先生に多様な動物模倣の動きにより、見たものを真似て同じ動きをする力、体の色々な部分を同時に動かす力などコーディネーション能力（バランス・連結・変換・反応）につながることを学んだ。日々の保育の中で、活動の合間や部屋を移動するときなどに活用し、多様な動きが継続してできるように心掛けた。

付箋を活用することで会議に参加できない職員の意見も取り入れ協議し、子どもの姿を多面的に捉えられるようにした。また、協議内容を可視化することで方向性をそろえていくことができた。



### もみじこタイム

以上児は曜日を決め体操とマラソン。未満児は毎日体操に取り組み、繰り返して体を動かせる時間を設けるようにした。



### 事例研究・研究保育



### サッカー教室 テーパー教室

サッカー教室では社会人野球チーム「カナフレックス」の選手の直接指導も経験し、もっと速く投げたいなど子どもがあこがれやってみようという意欲につながった。

## 成果

★仮説①から  
・多様な動きを楽しむことが大切であることが分かった。  
・走る機会を多くもつことで思い通りに体を動かす力がついた。

★仮説②から  
・保育者の存在（言葉がけ、見守り）や友達からの刺激、繰り返してできる環境が「やってみよう」の気持ち作りにつながった。

★仮説③から  
・戸外遊び、室内遊びにおける環境作りの実践が動き出すきっかけにつながった。

## 園内体制と研究主任における成果と課題

○全体会議や研究推進委員会会議など、話し合う内容によって会議を分けることで、その時に応じた職員で会議をし、スムーズに話し合うことができた。

○研修によって園内研究の進め方を知り、研究主任として何をすべきなのか、何を協議しなくてはいけないのかを考える手引きとなった。

○本園は中規模園であるが、一人担任のクラスもあるため、多様な意見を得ることが難しかった。また、全体会議をする場合には必ず代わりの保育者が入らなければならず、会議ができないこともあった。

## 課題

- 未満児園庭の環境作り
- 環境作り→実践→話し合い→再構成のサイクル作り

- 体幹を鍛えていくための環境作り（バランスを保つ環境、体を支える環境）
- 話を聞く集中力のなさ（聞くための姿勢を意識した保育者のなげかけ）

# 東近江市立能登川ひばり保育園

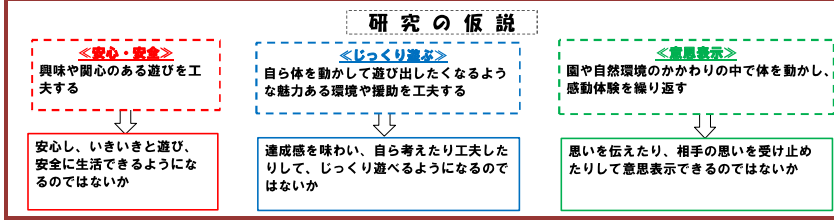
年齢	人数
0歳児	4名
1歳児	15名
2歳児	21名
3歳児	26名
4歳児	25名
5歳児	31名
合計	122名

(H30. 12. 1現在)



## 園内研究主題

「自分で考えて行動し、いきいきと遊ぶ子どもをめざして」  
～運動遊びと身近な自然とのふれあいを通して、  
環境構成や援助のあり方を探る～



### 園内研究する上で大切にしていること

- 職員全員が参加でき、互いに学び合える形を工夫する。(アンケート・各クラスで話し合い・研究保育への参加) 具体的にどう保育するかわかりやすく表現する
- 研究主任2人体制(未満児1人・以上児1人) リーダー(未満児)・サブリーダー(以上児) 今年のリーダー → 次年度サブリーダーを育てる。
- 互いの話を肯定的に聞ける同僚性を大切にしている。

## 園内研究の取組

### 未満児研究保育から

楽しい雰囲気の中で 付箋使って

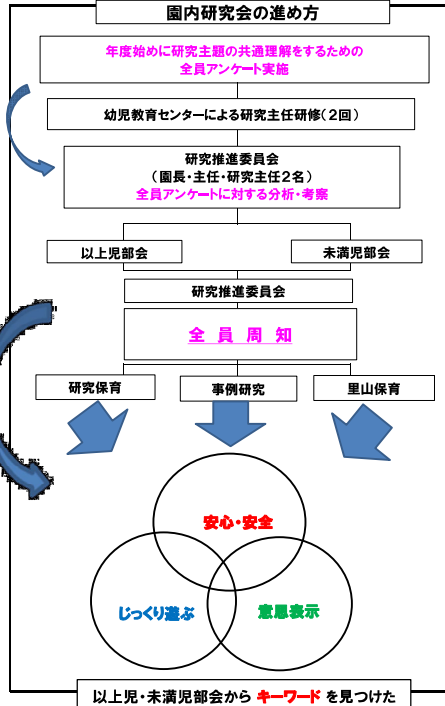
全職員アンケートで共通理解をする

全職員アンケートの質問事項			
子どもの良い所はどこ?			
子どもの気になるところ何?			
こんなふうに育ってほしい			

全職員アンケートをもとに話し合った結果...

- いきいきと遊ぶとは... 健康な心と体であること 友達とつながって遊ぶこと 夢中になって遊びこんでいること どんなことにも挑戦すること
- 自分で考えるときは... 試行錯誤すること 友達の変化を見て学ぶこと 相手の気持ちを考えること
- 自然遊びの良さは... 四季の移ろいを感じられること 動物に触れ合い、発見や感動があること 危険を認知する力が養われること
- 運動遊びの良さは... 体力、体幹が向上すること 友達関係が広がること 集中力、粘り強さ、挑戦する心が育つこと

**安心・安全 じっくり遊ぶ 意思表示**の表は、職員室に掲示して いつでも、誰でも、見られる



### 意見が出しやすい、職員関係

#### 里山保育

里山保育とは... 学委員のナビゲーターの人と一緒に5歳児が猪子山を年10回散歩します。

どこそこ?

クモっておしりの穴から糸出んだね

クモって黄緑と黒の模様できれいだね

#### 自然の中で心と体が育っています

うん?何の匂いかな?

猪子山

なんか猪子山のような甘い匂いがする!

5歳児 里山保育 (12月)

### 研究保育 いきいきとあそぶ

ほくもやろう~

0. 1歳児 砂遊び (11月)

くまさん おーきーー

自分のできるよ

じぶんでかんがえて

次はつかまらなぞ!

忍者になりきぞ~

先生見てね

4歳児 忍者の修行 (6月)

### <研究を通しての気づき>

- 研究主任研修を受けることで、自園での取り組みの進め方がわかり、より研究を深められた。
- 園内研究の進め方についてアンケートを取ったり何度も話し合いをしたりしたことで、見る視点を絞り、共通のポイントで見ることができ、話し合い等で一貫性を保つことができた。
- 研究を重ねていくことで、保育者の学びや質の向上につながるようになった。
- 他者の意見を聞くことで、自分と違ったものの見方にふれ、豊かに考えられるようになった。
- 互いの話を肯定的に聞くことで、それぞれが思っていることをたくさん出し合え、職員の育成にもつながった。
- 研究保育を写真に撮って記録に残すことで、担任が一人一人の子どもの様子が分かったり、研究協議の中で出てくる話の様子が分かったりして、みんなで共通理解できた。
- 研究主任を2人体制にし、未満児部会のリーダーを研究主任のリーダーにしたことで、全職員が同じ目的をもって取り組めた。



### <子どもの姿>

- いろいろな遊びに興味をもち(自主性)、自分達で遊びを進めようとする姿が見られるようになった。
- 戸外に出て体を動かして友達と関わって遊ぶことが多くなった。
- 安心して自己表現する子が増えた。
- 年齢が上がるにつれ、友達や異年齢の友達に優しく接する子どもが増えてきた。

### <今後の課題>

- 気持ちをコントロールする力が弱く、よくない事でも友達の真似をしたり思い通りにしないと手が出て友達を傷つけてしまうことがある。
- 自己中心的な考え方であったり、人文の言葉で思いを話さることができない子が多い。
- キーワード「安心・安全」「じっくり遊ぶ」「意思表示」にとらわれすぎ、研究主題の「考える子」「いきいきした子」についての保育がどうであったかの検証がおろそかになってしまった。
- 今後、子どもの遊びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」分析をしていく必要がある。



**心と体を弾ませて  
いきいきと遊ぶ子どもを目指して**  
～「やってみよう」「たのしいな」「いっしょにしよう」～  
自立心を育む環境と援助を探る

園児数	3歳児 (12人)	4歳児 (6人)	5歳児 (18人)	合計	36人
-----	-----------	----------	-----------	----	-----

**研究の仮説**

- ◎自分の思いに共感し、認めてくれる保育者や友達がいることで安心し、自分から意欲的に遊ぶことができるのではないか。(自分で考える)
- ◎発達段階に応じた環境や援助をすることで「やってみよう」という思いが高まり、自分から遊びに関われるようになるのではないか。(行動する、次へ挑戦する)
- ◎身近にいる人や自然との関わりから刺激を受け、行動することで、達成感や充実感、相手のことを思う気持ちが育ち、他者とつながる心地よさを感じられるのではないか。(達成感を味わう、他者と関わる)

この写真と同じ物見つけた!

葉っぱを集めよう。

これで転がるかな?

里山保育

自分で考える

行動する

達成感を味わう

焚火に挑戦!

**自立心を育む**

次へ挑戦する

中学生職場体験

他者と関わる

たまちゃん体操

もっと高い山作ろう。

地域の人と…

**成果と課題**

- ◎子どもの活動を見通すことについては、ねらいをしっかりともち、活動のねらいに沿った言葉の拾い上げや、取組の分岐点となる子どもの姿を見極め、保育者が展開の方向性をつけていくことも必要である。
- ◎異年齢児の交流に力を入れつつも、各年齢の発達過程に応じた環境を整えることが大切である。また、子どもの姿に合わせて環境の再構成をすることで、経験をもとに自ら動けるようになる姿も見られた。

**研究主任として…**

- ★昨年度の成果と課題より30年度の研究主題を設定したが、新年度が始まり子どもたちと過ごす中で、違う課題が見えてきた。主題設定の見直しをどうすればいいか迷った時に、幼児教育センター実施の『園内研究の進め方』中井清津子氏の講義を基にして、全職員で意見を出し合い考え直すことができた。小規模園だからこそ、職員一人一人の思いを把握し、共通理解をする大切さを感じた。
- ★小規模園の課題の一つに集団としての育ちを重きにおき、異年齢児交流を進めたことによって、年齢ごとの発達段階に応じた環境設定、援助の仕方が十分に押さえられず、園内研で指導を受けた。改めて、保育を見直すことができ、それ以降、発達段階を意識し、異年齢児の交流をしながらも、各年齢で目指す姿を確認し、クラス担任だけが保育を進めていくのではなく、3学年が情報を共有して進めていくようにした。



# 東近江市立八日市幼稚園

友達とともに育ち合う子どもをめざして



3歳児 24名

4歳児 18名

5歳児 28名



## 研究のサブテーマ

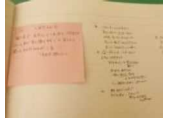
人とふれあい思いやりの心を育むための保育者の言葉がけや援助を探る。

## 仮説

- 1 葛藤やつまずきを乗り越え自己充実できれば友達の思いに気付いたり受け入れたりする思いやりの心が育つのではないかと。
- 2 保育者が子どもの気付きや思いを読み取り思いをつないでいくことで、子どもたちは人とふれあい友達とともに育ち合えるのではないかと。

## 内容と方法

- 抽出児から幼児理解に努める。(公開保育・ビデオ事例研究)
  - ・各年齢において抽出児の葛藤やつまずきを追うことで子どもの姿を分析し、心の動きを探る。
- 保育者の人権感覚を磨く。
  - ・つぶやきノートを作成し、子どもの姿を通して保育者同士の言動について学び合う。



## ビデオによる事例研究

5分間のビデオを見る。見た感想を出し合う。その意見について話し合う。



## わたしたち、気付きました!

ビデオを見て子どもが安心する瞬間がわかった。

自分ならどんなやりとりをしただろうと改めて考えた。

子どもの行動に寄り添う保育者の言葉一つ一つで遊びの方向が変わる。

子どもの安心した時はどこだろう?と考えた。

他の学年なら? どうしていたのかと子どもの違う視点を考えた。

この時の子どもの気持ちを読み取る力が保育者に必要だと思った。



## 子どもたちが変わってきました

保育者の子ども一人一人をか大切にしながら、なかかわりの中子どもが安心できる基盤を自分自身で築き出す。

友達とのかかわりの中で自分を表出すると、葛藤やつまずきが生じる。自分なりの乗り越え方を見つけ、自己充実に向かう。

自己充実すると、友達とのかかわりの中で自分の居場所を見つけられる。

自分の居場所を見つけると、一人一人が安定して友達と進んでかかわろうとする。

一人一人が安定すると、人間関係が安定し他者の思いに気付くことができ、自分の気持ちに折り合いをつけることができる。

自分の気持ちに折り合いをつけることができる、友達の思いを受け入れることができ、思いやりの心が育つ。



## 成果

- 子どもが人とふれあい思いやりの心を育てていくまでのプロセスがわかった。
- 子どもに思いやりの心を育むため保育者として必要なことがわかった。

## 講師

- ・指導
- ・助言
- ・**勇気**

## アドバイス



## 悩み・質問



## 研究主任の役割

- ・研究の進め方を考える (日程、話し合いの時間、内容 など)
- ・共通理解の仕方を考える (子どもへの声のかけ方、意識、環境 など)
- ・資料作成・まとめ方
- ・保護者への啓発

## アドバイス



## 悩み・質問



## 市の指導員

- ・指導
- ・ヒント
- ・**喝**

## 課題

- 保育者が、保育者として以上に、人として人権感覚をさらに磨き続けることが、子どもに思いやりの心を育むために必要なことだと感じた。
- 日々の保育において、子ども一人一人の葛藤やつまずきの場面で、どのようなかかわりが望ましいか研究する必要がある。
- 保育者自身、この研究を通して「思いやり」について一番考えるきっかけとなったことから、目に見えない心の育ちを保護者とともに育んでいけるような発信を、園がしていく必要がある。

## 幼児教育センター

- ・見守り
- ・協力
- ・**励まし**





# 東近江市立建部幼稚園

## 研究主題

### 「やったあ！できたよ」「もっとやってみよう」「こんなふうにしてみよう」 ～友達と一緒に楽しく体を動かすための、環境や援助の方法を探る～



3歳児いちご組 16名 4歳児うさぎ組 20名 5歳児きりん組 19名

## 研究の仮説

- 1 自分の思いを受け止め、共感してくれる教師が側にいることで情緒が安定し、自分から興味のある遊びを見つけ、意欲をもって取り組めるのではないか。
- 2 発達を見通しながら、子どもが心を揺さぶられ、「少し難しいけれどやってみよう」と挑戦したくなるような環境や援助を工夫することで、体を動かすことが好きな子どもが育つのではないか。
- 3 友達と一緒に『やったあ！できたよ』『もっとやってみよう』『こんなふうにしてみよう』と感じながら遊ぶことにより、自分達で遊びを作り出していく楽しさを味わえるのではないか。

## 公開保育 研究協議 事例研究

6月

10月

11月



- ・ **子どもの内面理解に迫るため、付箋を活用した。**黄色は課題、ピンクは有効な援助、青は成長した姿と色分けしたことで、一目見てわかりやすく協議を進められた。『遊びを楽しくするための援助』や『意欲につながる援助』など、カテゴリーを分けて考えることで、援助や環境構成で大切なポイントが明確になった。回数を重ねるごとに、育ちをたくさん見つけられるようになったり、スムーズにまとめられるようになったりした。
- ・ 内面理解や援助を工夫するために日々の遊びや生活の様子を記録し、課題を探る。子どもの成長した姿を共有したり、援助の方法や環境の構成について協議したりすることで、保育実践や運動遊びの年間計画の見直しに活かした。

## 講師や幼児教育センター指導員からの助言を受けて

- ・ 運動遊びの年間計画を見直したことによって、「遊びを楽しくするための援助」「自信や意欲につながる援助」「安全面に配慮した環境」「安心につながる援助」「一人一人に合った援助」などが、大切であることが分かった。
- ・ 研修で学んだことを翌日、全職員に復命し、子どもへの声かけや援助の方法、環境構成を見直したりすることで、保育に活かすことができた。

遊びを発展させていく力、持続力、集中力、体力、バランス、仲間意識、力加減などが育った。



## 運動遊びの年間計画の見直し

- ・ 各年齢の発達に応じた運動遊びを計画的に保育に取り入れられるように作成、見直しをしている。3学年でのすり合せや、事例研究などで話し合った援助や環境を書き込む欄を新たに作成した。



## 研究主任育成研修で、小規模園の園内研究の進め方を学ぶ

### 研究主任の役割

- ① 子どもの実態や課題を共通理解するために意見の集約をする。
- ② 研究協議では、全員の意見ができるように、進め方の工夫（付箋の活用）をする。
- ③ 出た意見のまとめをすぐに作成したりして全職員で共有できるようにする。
- ④ 事例研究が保育実践に活かせるように、様式の検討をする。

## 職員間の連携

### 朝の打合せや保育終了後を活用

- ・ 子どもや保護者の様子で気付いたことや感じたことを伝え合うようにしている。小規模園だからこそ、自分のクラス以外の子どもや保護者の様子でも、変化に気づいたり声をかけ合ったりすることができた。

## 成果

- ・ 小規模園の強み（全職員がそれぞれのクラスの子ども達の様子を知っている）を活かし、研究協議を進めることができた。付箋の活用によって、職員間で育ちを共有することができた。共有したことを可視化することで、子どもや保護者に伝えることで、本園が目指す子どもの姿を保護者にも伝えることができた。

## 今後の課題と取組

- ・ 子ども達の育ちを可視化して、家庭や学校へより一層発信していく。
- ・ 運動遊びの年間計画を引き続き行っていく。
- ・ 取組の過程をファイリングして、いつでも見られるようにしておく。
- ・ 一年間の成果と課題を明確にし、丁寧に引き継いでいく。
- ・ 少人数の園で、全職員が揃う機会も少ないため、事前に意見を集約したり、出た意見や話し合いの内容が全職員で共有できるように職員室に掲示するなど工夫をしていく。





◎研究主題

一人一人が自分らしさを出し、友達と遊ぶ子をめざして

～身近な自然と少人数の良さを活かして～

◎平成29年度から4・5歳児が合同の異年齢児保育を実施  
(4歳児 9名・5歳児 6名 計15名)

■29年度の課題

- ★コミュニケーション力が弱い。
- ★自尊感情が低い。
- ★言葉で自己表現する力が弱い。

■30年度の育てたい力

- ・自主性・意思表示
- ・主体性・自尊感情
- ・たくましい体

取り入れていきたいこと

- ・恵まれた自然や地域文化を活かす。
- ・園を飛び出して人と交流する。

仮説

① 遊びの環境

「楽しい」「できた」という経験を積み重ねる。  
遊びの環境を工夫する。  
↓  
繰り返し遊ぶ。  
↓  
意欲的に取り組む。

② 自然を活かした保育

自然の中で友達といろいろな遊びを楽しむ。  
↓  
「気付き」「発見」「興味」「関心」  
↓  
遊びの意欲が高まり主体的に行動できる。

③ 教師の援助

自分の思いを十分に受け止めてもらう。  
自分が主役になれる経験をする。  
[葛藤]「我慢」を経験する。  
↓  
人を思いやる気持ちが芽生える。  
自信、達成感をもつ。

★環境の見直し

- △八日市めぐみ保育園へ見学
- △空き部屋の利用と環境構成  
「永源寺ランド」  
「永源寺動物園」
- △園庭整備による遊びの充実  
木登り、築山転がり、花色水
- △地域環境を活かした保育  
井戸水ポンプ作動体験  
郵便投函体験  
カイコの飼育

★保育内容・教材開発

- △自然を活かす  
さとやま探検(近隣神社)  
紅葉時、近隣永源寺へ散歩
- △他機関の利用・人的支援  
地域のダム工事現場見学
- △たくましい体づくり  
サッカー教室  
ティーボール教室
- △交流(保幼小中・地域)  
社会福祉法人ゆうあいの家  
ディケアサービス  
特別養護老人ホームもみじ  
音楽会、山小っ子ランドに参加  
近隣スーパーへ買い物体験  
市幼稚園との交流(4回)  
中学生チャレンジウィーク
- △自尊感情・自主性・主体性の育成  
遊びで作ったものを飾り、保護者に  
見てもらう機会を何度も設定

★職員の資質向上・研修

- △研究主任研修(KJ法を活用し、主題・仮説を明確化・幼児教育センターの指導により成果と課題を明確化)
- △校区研修  
自尊感情を高める取組  
作った作品を大切に取る取組
- △保護者に認めてもらう経験  
永源寺ランドに作った物を飾り、見てもらう経験(1学期末)  
永源寺動物園の制作(2学期)  
カレーパーティー、秋の自然物を使った作品・リース・ツリーを飾り保護者を招待(2学期末)

研究の内容及び方法

- 子どもの姿を通して発達・遊び・生活の実態を職員間で共通理解し、育ちと課題を探る。
- 事例研究・研究保育を通して、一人一人、また異年齢とともに育ち合える遊びや環境の在り方を探る。
- 講師招聘により、環境のあり方や教師の役割について学ぶ。

成果と課題

- ・少人数であることで子ども同士の力関係が固定化される難しさはあるが、逆に一人一人の良さを認め合い、自分が主役になれる経験が多いことで意欲を高めることができた。
- ・子ども達は大人の多い環境で育っており、仕草で理解され言葉で表現する力が弱い。思いを引き出すために疑問符のつく言葉がけをすることで自ら考え整理する力をつけていくことができると考える。
- ・自然を活かした保育は、教師だけでは考えつかないこともある。他機関の協力を得、子どもが興味をもつ探検保育を取り入れたことで不思議さや発見によるワクワク感を膨らませ、興味・関心を高めることができた。
- ・いろいろな経験を繰り返し積み重ねることにより、遊びに継続性が生まれた。



## 研究主題

# 生き生きと遊べる子どもの育成を目指して ～地域のいろいろな人との交流を目指して～

## 東近江市立市原幼稚園



3歳児さくら組	11名
4歳児ちゅうりっぷ組	8名
5歳児ひまわり組	7名
全園児数	26名

平成29年度から、4・5歳児合同の異年齢児保育を実施

### 市原幼稚園の子どもの現状

- ・少人数のため友達からの刺激やトラブルが少なくなっている。
- ・大人の目が行き届きすぎ、子どもが指示を待つ姿が見られる。
- ・友達関係の固定化が見られる。

### 課題

- ・友達とのトラブルの中で葛藤や譲り合いが少ない。
- ・自分の思いを主張したり折り合いをつけたりすることが少ない。
- ・友達とふれあって全身を動かして遊ぶことが少ない。

### 昨年度までの取組

- ・3・4・5歳児の異年齢での関わりを通して保育をしていく中で、単なる交流ではなく、各年齢の発達を保障しつつ異年齢の交流のあり方を探ってきた。

### 教師の願い

小グループであっても一人一人が生き生き遊ぶ姿をめざしたい。

今年度はさらに

### 研究の方法

- ①保育実践による子どもの行動分析
- ②地域のもつ力（環境、文化、人）を知り、様々な交流実践と保育への活用
- ③教育課程の見直し（地域年間交流計画の作成）

### 研究の仮説

（仮説1）市原小学校、永源寺幼稚園、もみじ保育園との交流で園以外の人と関わることで、ふだん経験できない新たな刺激を受けて「やってみよう」「がんばろう」と心が動き、生き生きと遊ぶ姿につながっていくだろう。

市原小学校、永源寺幼稚園、もみじ保育園との交流で園以外の人と関わる。

ふだん経験できない新たな刺激を受けて「やってみよう」「がんばろう」と感情が動く。

生き生きと遊ぶ姿につながっていく。

（仮説2）子ども達がつくり変えられるように環境や教材の出し方を工夫し、繰り返し遊びに取り組む中で、異年齢で同じ場で遊んでも、年齢に応じた遊びが楽しめるのではないかと。

繰り返し遊べる教材・環境がある。

年齢に応じた遊びができる

身近に友達を感じられる場を用意する。  
身近にモデルがある場を用意する。

教師が肯定的な受け止めをする。

### ★研究組織図★



### ★研究主任の役割★

- ・研究計画の立案、作成
- ・研究方法の提案
- ・地域の人材探し、交渉
- ・地域交流の年間計画作成
- ・研究会の司会進行とまとめ

### 幼児教育センター研修より

現状や課題、研究テーマ、仮説を考える際に付箋を使って意見を出し合う手法を学び活かした。



### 市指導員の助言より

- 事例研究の際に、KJ法を用いて、子どもの内面の読み取りを全員で行い、多面的な視野で検討した。
- 地域との交流の年間計画を立案し、計画的に保育に取り入れた。



へー。園が違うと、鬼ごっこのルールも違うんだね。

### 1年間の取組から

クミノ工房さんと作って遊ぶ



永源寺幼稚園との交流



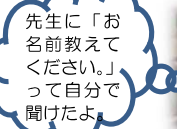
わあ、楽しいな。



どうするの？

お兄さんって物知り

市原小学校との交流



先生に「お名前教えてください。」って自分で聞けたよ。



### ★成果と課題★

- ・仮説1を検証する中で、各年齢の発達を踏まえつつ園の教育課程に年間を通して他園や小学校と関わる機会を盛り込んだことで、園内の小集団だけでは味わえない体験をすることができた。その中で、自分から思いを相手に伝える自発的な態度が見られたり、身近なモデルに刺激を受けたり、遊びを園に持ち帰って再現する意欲的な姿が見られた。
- ・仮説2の検証からは、関わりやすく、子ども自身がつくり変えたり選んだりできる環境の設定を行うことで、他園との交流においても、年齢に応じた遊びが楽しめることが事例研究や交流活動の中でも明らかになった。このことから園の垣根を越え様々な人と関わることは、子どもにとって良い刺激となり、関わり方の変化の一要因になると考えられる。そのためには各年齢の子どもが今どこに興味関心を感じているか、何を体験することが重要か、教師が見極め計画的に保育に取り入れることが大切である。
- ・研究主題を決める時から付箋などを利用しみんなで話し合いをしたことで、職員みんなで話し合う体制ができ活発な討議をすることができた。また、少人数の職員なので、そろったらいつでも話し合いができ、研究に対して同じ思いをもって取り組むことができた。

# 東近江市立 愛東あいあい幼稚園



**研究主題**  
一人一人が自分らしさを出しながら  
ともに育ち合う仲間づくりをめざして  
～思いを出し合いながら 友達と遊びを楽しむ  
ための環境や援助のあり方を探る～

園児数		
3歳児	いちご組	22名
4歳児	ぶどう組	29名
5歳児	めろん組	20名
		計 71名

**仮説 1**  
保育者との信頼できる関係があることで、子ども達は安心して過ごすことができ、自分の思いを出せるようになるのではない。  
(安心)

**仮説 2**  
「おもしろそう」「やってみたい」と思える環境があることで、自ら遊びに取り組みようとする意欲が育つのではないか。  
(意欲)

**仮説 3**  
自ら考えたり試したりして十分に遊ぶことができる環境や援助を工夫することで、子ども達は満足感や達成感を味わい、自信をもって人やものに関わることができるのではないか。  
(自信)

**研究内容と方法**  
\*子どもの姿について話し合い、内面理解を図ろう。  
\*子どもが安心して自分の思いを出したり、自信をもって活動したりできる環境構成や援助のあり方を探ろう。

**実践1**  
○講師の先生を招いて事例研究を行い、写真やビデオによる子どもの姿から内面理解をするとともに、各年齢における発達段階や遊びの内容について話し合った。



**実践2**  
○公開保育を行い、  
①安心して過ごし、自分の思いを出していたところ  
②自分から遊びを見つけ、意欲的に遊んでいたところ  
③友達とかかわって遊びを楽しんでいたところ  
について参観者に記録してもらい(付箋を利用)、研究協議に活かした。



**研究主任育成研修で得た学びを園内研で活かそう!**  
☆付箋や模造紙、ホワイトボードを使って話を進めていくと、話し合いがしやすいし、深められる。内容を整理したり、まとめたりでき、分かりやすい!  
☆1つの発言から、関連する事柄をいくつか具体的に挙げて問いかけていくようにすると、みんなから話が出やすくなった。

**学び、大事にしたいこと**  
○遊びや子どもの姿は、視点を変えることで、その見方や評価は変わる。内面理解は難しいけれど、新たな発見があった。  
○何度も主題と仮説に戻りながら、内容を整理し、方向性を見いだす。

そういう見方もできるよね。

**学び、大事にしたいこと**  
○自分達が求めているものに迫るため、研究保育はねらいに特化した内容にすること。  
○環境構成では、材料や数量、異年齢との関わりなど、細かな点まで職員間で共通理解しておくこと。また、環境の見直しと再構成を図っていくこと。

このことって大事よね。

思ったことが言い合えるって大事!

似た意見でもいいよ。

私はこう思うけど、どう思う?



毎日振り返りをしながら、子ども達が主体的に遊びを進めていけるようなサポートを考えた。異年齢児が継続して遊ぶ中で、次第に自分の思いが表現できるようになった。



ブランコを吊り下げロープに変えたことで、「おもしろそう」「やってみたい」と新たに取り組み姿が見られた。異年齢児の刺激を受け、いろんなぶら下がりに挑戦! 鉄棒は難しいけど...と周りの柵で前回りができることに気づき、そこから鉄棒でもやってみようとする意欲につながった。



「がんばりまめ」の本を見て「すごい! 私の手と一緒に!」と何度も雲梯に挑戦するようになった。友達の「がんばりまめに感化される子が増えた。また、雲梯のバーに印を付けたことで、「あそこまで頑張る!」と意欲を見せ、「やったー! いった!」と自信につながっている。

子ども達が主体的に遊んだり、活動したりしやすいような環境をみんな考えていこう!



**今後の課題**  
○好きなこと、楽しいことをやるだけが遊びではなく、失敗や葛藤などを経験することで遊びが学びにつながっていくことを改めて学んだ。今後は、なぜこの遊びなのか、何をねらっているのか、なぜこの環境なのか、年齢に応じた育ちを踏まえて保育を行っていくために、子どもの様子や遊びの展望、課題について細かに話し合い、共通理解するなどの充実を図る必要がある。  
○研究の方向性を見いだすことに時間がかかり、話し合いを定期的に行うことができず、またエピソードを書き溜めるまでには至らなかった。今後、全職員で意識しながらエピソードを書き溜め、短い期間で話し合いの場を持ち、みんなで分析したことを保育に活かすというサイクルを、体制として整える必要がある。  
○研究協議では、レジュメの作成や、進行に必要な役割を考えるなど、研究主任育成研修での学びを活かしながら、職員みんなが楽しい雰囲気の中で思いや考えを出し合い、内容に迫っていけるようにする。





# 東近江市立能登川第一幼稚園

## 研究主題

自分で考え、心や体をはずませて遊ぶ子どもをめざして  
～考えたり、工夫したり、協力したりできる環境構成と  
援助のあり方を探る～

3歳児	りす組	25名
	いぬ組	26名
4歳児	ばんだ組	32名
	うさぎ組	31名
5歳児	らいおん組	24名
	ぺんぎん組	25名
	計	163名

### 仮説①

やってみたいと思える魅力ある環境を構成する。



心や体をはずませて活動や遊びに取り組めるのではないだろうか。

### 仮説②

子どもと一緒に遊びを楽しむ中で、常に子どもの心の動きを読み取ることを意識し、声をかけずに待ったり、いつ、どのような言葉をかけるかを考えたりする。



子どもが考えたり工夫したり協力したりできるのではないかと。

## 研究内容と方法

★研究主題に対する職員間の共通理解を深めるために…  
考えたり、工夫したり、協力したりできる環境や援助について話し合う。

★一人一人の実態把握と幼児理解に努めるために…  
日々の遊びや生活を通して、子どもの心の動きを記録する。

★研究保育(3回)、事例研究会(3回)を行い、下記の3つの視点について話し合い、保育分析を行いました。

### ① やってみたいと思える魅力ある環境

たくさんの遊びがあり、発達段階にあわせて選ぶことができる

本物に近い素材や道具(果物の皮、包丁、しぼり袋)を用意する

どこに何があるか一目で分かる、また、何でも自由に使える環境を構成する

「ちょっと頑張る」が必要な遊びも用意する



十分な時間が確保されている

繰り返し遊ぶからこそ今日の遊びがあり、「やってみよう」につながる

楽しそうに一緒に遊ぶ保育者、安心できる保育者の存在がある

友達の遊んでいる姿がよく見える

### ② 子どもが考えたり、工夫したり、協力したりしている場面

おおきいいけつくろう!

みずはこんでくるわ!

もっとふかくほろう!

つめたくてきもちいいな~

バケツおもたいな~

いっしょにはこぼろう!

ありがとう!

### ③ 保育者の言葉がけ、まなざし

笑顔で見守る

「先生見て」と言われた時にすぐに対応できる距離を保つ

どのような遊びもまずは受け止めて、どうなるか見守ったり声をかけたりする

一緒に遊びを楽しむ

子どもが自分で考えられるようなヒントを出す



友達の遊びに気付ける声かけをする

繰り返し挑戦しても自分の思い通りにならなくて困っている時には、励まし、手伝える

「こんな風にしたんや」「がんばってるね!」など認め言葉かけをする



研究保育、事例研究の数日前に指導案や事例を配布し、3つの視点について各自が考え付箋に記入し話し合いに参加した。

話し合ったことをまとめて職員室に掲示し、職員全員で共通理解できるようにした。

## 成果と課題

- 常に子どもの心の動きを読み取ることを意識し、声をかけずに待ったり、いつ、どのような言葉をかけるかを考えたりする保育を心がけたことで、子ども自身が考えたり、工夫したり、協力したりしている姿が多く見られるようになった。
- 職員全員が園内研究の主題について共通理解をして進めることができた。3つの視点(「やってみたいと思える魅力ある環境」「子どもが考えたり、工夫したり、協力したりしている場面」「保育者の言葉がけ、まなざし」)を考えたことでより多くの意見が出て、話しやすく、子どもの姿をより深く読み取ることができた。また、3つの視点を決めたことで、どのような環境や援助が良かったのか、保育を見直すきっかけになった。
- 一人一人が意見をまとめ、付箋に書いて話し合いに参加したことで、短い時間でも充実した話し合いができた。
- 今年度は「やってみよう!」と子どもが自分から好きな遊びを見つけることができるような環境について研究を進めてきた。来年度はさらにもっと考えたり工夫したり協力したりできるように、子どもの活動の流れに即し、子どもが実現したいことを捉え、子どもの思いやイメージを生かせる環境の再構成について考えていきたい。

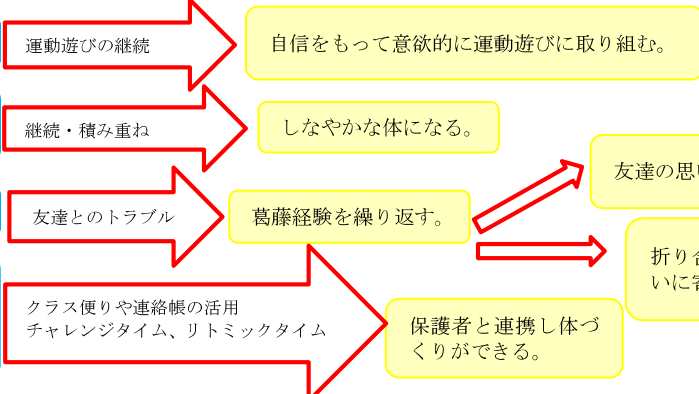


研究主題

「心豊かでなかまと共にたくましく遊べる子どもをめざして」～様々な運動遊びや日常の動きを通してしなやかな体と心を育む～

研究の仮説

- 1 思わず体を動かしたくなる環境
- 2 体を動かすことに意識向ける環境や声かけをする。
- 3 運動遊びを友達と一緒にする。
- 4 保護者に運動遊びの様子や育つ力を知らせる。子どもが運動遊びの様子を伝える。



研究主任の役割

- ・研究主題、仮説を立てるために前年度の研究の反省と子どもの姿をもとに今年の園内研究のテーマと仮説のたたき台を作成し、園長、主任と協議し、担任を交えて協議後作成した。
- ・公開保育や事例研究の前には、担当職員と仮説と研究の進め方を再確認し、事例研究、研究協議の進め方や付箋利用の有効な使い方について協議して、必要なものを準備した。研究協議の内容から話し合いのもち方を振り返り職員の意見が出やすく、テーマや仮説に迫った話し合いができるよう工夫した。
- ・指導案や事例作成の時に担当職員と計画、進み具合の様子を見ながら資料の仕上がりに向けて声をかけた。
- ・運動遊びの日程や研修について講師との連絡、相談。研修後次の日の打ち合わせにて復命した。

研究の内容と方法、実践

講師を招いて運動遊びの研修(毎月運動遊びの実践と研修)



この遊びをすることで、重心が下がり体幹が鍛えられ、バランスが良くなるよ！  
(講師より)

リトミック研修(職員・子ども向け)



研究保育・事例研究

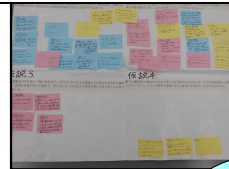
6月5歳 サークット遊び



10月3歳 トトロの森の遊び



付箋を利用して研究協議会



幼児教育センターの研修を受けて



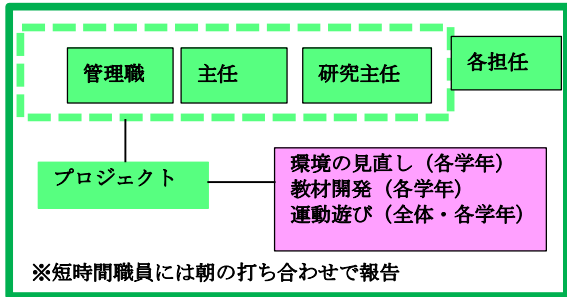
・仮説ごとに付箋を貼り付けたが、意見の集約がしにくいので2度目は環境と援助に分け、協議には参加しない短時間勤務の職員の意見も付箋で取り入れた。(市指導員の指導より)  
プレイストレーミングのように思ったことを付箋に記入して、貼る時に分類する仕方を教えてもらった。  
(びわこ学園大学 講師川副先生の指導より)

12月事例研究会



事例の内面理解と考察を空白にし、いろいろな読み取りができた。

園内研体制組図



園内研打ち合わせ  
園長、主任、研究主任



今日の子どもを語る会



成果と課題

- ・講師を招き毎月の運動教室を実施し、遊びを継続的に取り組んだことで子ども達が意欲的に運動遊びに取り組み、体の動かし方の変化が顕著に見られた。またその後に職員向けの研修をすることで、運動遊びをする際の関わり方や力、見方のポイントを知ることができ、職員の意識や声かけの仕方が変わった。
- ・運動遊びができる環境を身近な空き教室や廊下に作り、子どもの発達段階を見ながら再構成をすることで継続して運動遊びに取り組むことができ、しなやかに体が動かせられるようになった。
- ・友達と一緒にリレーやドッジボール等の運動遊びを繰り返すことで、自分の思いを伝えあい相手の気持ちに気付けるようになった。ルールを明確化することで継続的に遊べた。
- ・幼児教育センターの研修を受け、付箋利用をして研究協議を行い、事例研究や公開保育、講師の研修等、短時間の職員に報告や入り方の工夫を行った。また、紀要の作成や研究協議の仕方等、積極的に園長、主任と打ち合わせをし実践することができた。
- ・学び続ける職員集団を目指して保育、研究に取り組むことができた。



東江市立  
長峰幼稚園

# 安心して自分を出して遊ぶ子どもの育成をめざして

～「やってみたい」と一歩を踏み出せる環境と援助の在り方について～

3歳児:2クラス(40名) 4歳児:2クラス(37名) 5歳児:2クラス(54名) 計:131名



やる気を引き出すためには？

子どもの内面理解に重点をおこう！



## 仮説1

- ・自分なりに取り組んでいる姿を認める
- ・共感し合える教師や友達の存在

♡安心♡

## 仮説2

- ・「やってみよう」「やってみて楽しい」「繰り返しやってみたい」と思える場作り

☆夢中になって遊ぶ☆

指導員助言

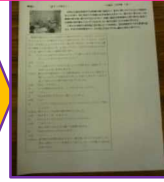
重点的に見る子を決めて、より子どもの内面理解にせまれるので。

抽出児の経過は写真で記録しよう。



園長・主任・担任による詳細決定

保育者の主観で書かれている考察がない様式で話し合ってみては。



全員参加で気付きも多い。



少人数のグループで話し合う。



次回は付箋を使用してみては。



主任・学年主任による原案作成

意識向上のため、司会と記録を順番にしよう。

付箋を使用することで記録をする時間が短縮できる。

意見が整理しやすく、具体的に話ができる。

活用

<後日>  
一目見てわかる！

研究会に参加できない職員にどのように伝えよう。



参加できなかった職員も話し合いの内容を理解できる。

抽出児をおいかけよう。

見る視点を絞ろう。



園長・主任・担任による詳細決定

同じ場面を見ることで共通理解ができる。

主観が入らず、事実のみが見える。

自分の保育を客観的に見られる。

保育中に全員が参観できない…。

ビデオを使って研究する方法はどうだろう。



今の時期はカップを増やそう。



何度も見られる。

保育後の週案会議の時間を利用して話し合う。



学年部会



園長・主任・担任会議

## 各リーダーを中心に進めるプロジェクト



廊下の環境を工夫しよう。



学年に応じた素材を使おう。



**園内研究の進め方についての成果と今後の課題**

成果

- ・プロジェクトをリーダー中心に進めたことによる、職員の園内研究に対する意識の向上。
- ・指導員の助言の実践による研究体制の確立。

課題

- ・研究を深めるための工夫。(話し合いの焦点化・時間の有効活用など)

**園内研究の成果と課題**

成果

- ・子どものありのままの姿を受け止めたことによる一歩を踏み出すきっかけづくりなど、教師の関わり方の変化。

課題

- ・子どもの発達、興味・関心に応じた環境構成や再構成。